



日本英語交流連盟

The English-Speaking Union of Japan

2015 年度 第 18 回大学対抗英語ディベート大会

【英国ディベート体験ツアー】報告書

優勝賞品 提供：日本英語交流連盟 協賛：ANA ホールディングス株式会社

東京大学 1 戸塚康文

皆様こんにちは。東京大学法学部四年（と言いながら、実際にこれを書いているのは卒業後、社会人として初めての出社を終えたあとの週末ですが）の戸塚康文と申します。

私は 2016 年の 2 月の 1 日にイギリスに向け出国し、25 日に帰国致しました。その間、2 月の前半はイギリスに滞在し、後半はヨーロッパ大陸の方へ移り、フランス、スペイン、イタリアと回っておりました。今回はイギリス滞在のレポートをとということでしたので、前半の滞在についてお話させて頂ければと思います。

さて、この度のイギリス旅行は、自分の生涯の中で初めてイギリスの地に足をつける瞬間でした。中高の英語の先生がイギリス出身の方であったこともあり、自分が英語に触れ始めた頃からイギリスに対しては親近感があったものの、22 歳のこの時期になるまで一度もその文化や景色、人柄をこの目で確かめたことがなく、思い入れのある、憧れの地でした。そんな中、ESUJ からこのような素晴らしい機会を頂き、是非ともということで旅行を企画致しました。

回った場所を大きく分けると四つです。London、Scotland、Lake District、Cambridge です。旅程としてはまず London に着き、そこから Edinburgh に飛び、南下していったという形です。各々の土地の特徴などは、私よりもガイドブックを参照していただけた方がより詳細かつ実りのある知見を得られると思いますので、自分が旅行を通じて感じたことを私見ながら書かせていただきます。

まず、お酒好きの私として触れないわけにはいかないのですが、これが本場のパブか！という驚きです。日本でパブと言えばチェーン店である HUB がとても有名ですが、恥ずかしながら自分も旅行前は HUB しか知りませんでした。しかしそれがイギリスに行き、まるでセブンイレブンの如く点在しているパブに巡りあい、イギリス人に根付いている「まずはパブで一杯」の文化を肌で感じました。本当に、都心地方を問わず至る所にあるんですね。またもう一つ驚きだったのは昼からパブがオープンしていることです。これまた日本との比較になりますが、日本のパブ（少なくとも HUB）は、お酒を飲む場所としてのパブであり、基本的に夕方から夜しか空いていません。しかしイギリス本土のパブは昼間から空いており、お酒を飲む場所としても勿論ですが、どちらかというと食事をする場所として利用されていました。昼はレストラン。夜は BAR。そんなパブの果たす多彩な役割に感銘を受けました。



日本英語交流連盟

The English-Speaking Union of Japan

さて、お酒の話だけで終わると少し広がりには欠けますので、今度は街並について触れさせていただきます。旅を通じて常に感じていたのは、「美しい」の感覚でした。どう美しいかという、建物の作りの一つ一つが重なった年数を静かに、しかししっかりと主張しており、その集積が一つの都市全体をあたかも巨大な建築物であるかのように構成しているのです。教会や有名な時計台だけではなく、ふと入ってみた曲がり角のアパートの壁面までもが、その長年の呼吸の跡を、視覚を通じて訴えかけてきました。この感覚は、既に多くの建物がコンクリートで人工的に設計・構築されている日本、殊更東京では到底味わえない感覚であり、毎日心が温かく満たされていました。

この他にも、お話ししたいことは沢山ありますが、そろそろ筆を置かせていただきます。最後に、上記の二つ以外にも、数えきれないほどの「初めて」を授けてくださった ESUJ 及び ESU の皆様に感謝申し上げたいと思います。特に本滞在中には ESU の本部をお訪ねする機会を頂き、Leela さんを含むお二方から ESU の起源や海外でのディベートのトレーニング方法に関するお話をして頂いたり、Dartmouth House の中をわざわざご案内頂くなど、大変お世話になりました。

とにかく刺激的な旅行で、忘れられない思い出となりました。この経験を糧に、今後も精進して参りたいと思います。